

## 産業観光の拠点としての織姫神社の整備について（新規）

桐生市市民文化会館の前庭にある織姫神社は、桐生の近代産業の礎を築いた日本織物株式会社の足跡を示す数少ない場所であり、60年以上管理を行ってきた地元三区の手を離れ、平成31年3月から桐生市の管理となっています。

明治28年（1895年）に建設された「一間社流造」の神社は、魂の抜かれた神格のない形で残されており、周囲には佐羽喜六の顕彰碑や「富士紡績株式会社桐生工場の跡」の碑など、このあたり一帯にノコギリ屋根工場を連ねていた日本織物株式会社を偲ぶ遺構が配置されています。

しかし、その貴重な歴史は広く市民らに知られているとは言い難く、日本織物株式会社の日本における先覚的な役割、経営の中心にいた佐羽喜六の人物像などは長く語り継ぐべきものであります。

つきましては、織姫神社周辺を桐生の産業観光の原点となるような記念公園的な整備をしていただくことを、強く要望いたします。

### 桐生市からの回答

織姫神社は、御要望にもありますように日本織物株式会社の歴史を偲ぶことができる大切な場所であることは市としても認識をしているところであります。

なお、織姫神社一帯を記念公園的に整備することにつきましては、現段階では考えておりませんが、関係機関と調整等を図ってまいりたいと思っております。

[回答担当] 産業経済部観光交流課日本遺産活用室